

令和6年度 学校自己評価結果等報告書

学校名 (豊岡市立三江小学校) 校長名 (河本 純子)

1 学校教育目標

可能性に挑戦！
～肯定的な関わりの中で非認知能力（やり抜く力・自制心・協働性）を子どもたちに～

2 学校教育推進の視点

- (1) 「教育課程・非認知能力」に対応した校内研修の推進
- (2) 人権教育・特別支援教育を学校経営の根幹に据えた教育活動の推進
- (3) 「子どもに寄り添い、子どもの事実から学び、子どもの個性や能力を伸長する」教育の推進
- (4) 「地域教材に学び、地域人材を活用し、地域社会に開かれた」学校づくりの推進

3 総合的な自己評価

今年度も学校教育目標の実現のため協働体制のもと教育活動を推進することができた。今後も、「子どもに寄り添い、子どもの事実から学ぶ指導体制」を構築し、「児童理解研究」と「教科研究」の両面から教育活動を推進していく。

4 自己評価結果 (A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない)

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策
教育課程	・ 確かな学力を身に付ける学習指導	・ 学習タイム、少人数授業、個別指導の充実、分かる授業づくり	B	○UDの視点を取り入れ、基礎・基本の定着及び思考力・判断力等の育成につながる授業づくりを推進するとともに個別指導の充実を図る。 ○焦点化・明確化した話し合い活動の工夫と充実を図る。 ○個々の実態を明確にし、きめ細やか学習指導を推進する。 ○チャレンジタイムを継続し、学びに向かえる体づくりを推進する。
	・ 道徳教育	・ 地域道徳教材の活用、重点目標を意識した授業実践と工夫	B	
	・ 英語遊び・外国語活動・英語科	・ 楽しい授業づくりの推進、ALTを活用した図書の推進	B	
	・ 総合的な学習の時間	・ 探求的学習の推進、体験的な活動の充実、地域人材の活用	B	
	・ 特別活動	・ 児童会活動の活性化、話し合い活動、縦割り班活動の充実	B	
学校運営	・ 開かれた学校づくり	・ 情報発信、オープンスクール、授業参観、地域人材の活用	B	○学校運営協議会や地域学校協働活動を有効に活用し、学びの充実及び子どもたちの安全・安心を守る取組の充実を図る。 ○学校だよりやHPの更新などによる情報発信に努める。 ○子どもの実態把握に努めるとともに、情報共有を行い、全職員共通理解のもと同歩調で指導に当たる。 ○校内研修組織の充実を図り、めざす授業像・めざす児童像を明確にし、「授業デザイン」の共有と推進に努める。
	・ 勤務時間の適正化	・ 提示退勤日の実施、業務の「見える化」の推進	B	
	・ 引継ぎ連携システムの強化	・ 中学校体験入学、小中授業参観、幼小連携、情報の共有化	B	
	・ 生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	・ 生活指導委員会、児童理解とアセス活用、いじめ防止基本方針	B	
	・ 職員研修の推進	・ 校内研修の充実、非認知能力の理解の啓発、校外研修の参加	B	
・ 危機管理体制の整備	・ 安全点検と整備、通学路点検とボランティアとの連携	B		
課題教育	・ 非認知能力の向上	・ 演劇ワークショップ、各教科等における意識化と場の設定	B	○演劇ワークショップの学びを基に、非認知能力の育成を意識してあらゆる教育活動で位置づける。 ○コミュニティ・スクールを活用しながら、地域の「ひと・もの・こと」を発掘し、地域・保護者・学校が連携してふるさと教育に努める。 ○「三江っ子タイム」を「読書・学習」の時間とし、覚醒させるとともに落ち着いた雰囲気の中で1日をスタートさせる。(基礎学力の向上) ○優しい児童が多く、そのよさを友だちへの関わりに広げ協働性を育むために、全校で取り組む「体験活動」を実施する。 ○「コウノトリ」をテーマにした環境教育の取組は今後も必要性を感じる。 ○地域と連携した地域のよさを体験させる取組を計画・推進する。 ○キャリアパスポートを有効に活用しながら、「ありたい自分になるため」の夢や目標を持つことの大切さについて、今後も指導を継続していく。
	・ ふるさと教育	・ 地域教育資源（ひと・もの・こと）の活用、家庭との連携	B	
	・ コミュニケーション教育	・ コミュニケーション授業、協働性を意識した場の構築	B	
	・ キャリア教育	・ 「なりたい自分」の意識化、キャリアパスポートの活用	B	
	・ 人権教育	・ 教材活用、学級経営と人権意識の育成、福祉教育の推進	B	
	・ 特別支援教育	・ 教育相談、職員研修による児童理解の推進、個別支援の充実	B	
	・ 環境教育	・ コウノトリとの共生、環境体験事業、飼育栽培活動	B	
	・ 安全教育・防災教育	・ 避難訓練、防犯訓練、交通安全指導と自転車実習、校外児童会	B	
	・ 健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	・ 外遊びの推進、健康教育授業、給食指導、保険だよりの発行	B	
・ 読書活動	・ 家読、図書室環境整備、読み聞かせの充実	B		

5 自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

評価方法は適切であり、教職員の評価についても適切な評価がなされていると判断している。保護者の意見に対してしっかりと受けとめ、教育活動の改善に向けて取り組んでほしい。

6 総合的な外部評価

アンケートの結果から、概ね良好な結果であることがわかる。評価結果の根拠や理由も適切に自己評価し改善に向けた取組の様子がうかがえる。地域と学校との交流や様々な学校教育活動の取組等、全職員が協力して教育活動の推進に尽力されている感がある。しかし、近年、家庭における問題点（特に「省テレビ・省ゲーム」・挨拶・睡眠）も多く、学校とPTAや育成会が連携し、取組を推進していく必要性を感じる。

自己評価の妥当性
○教育課程について ・ 同僚性を大事にし、創意工夫しながら授業研究に熱心に取り組まれていると感じる。今後もわかる授業をめざして取り組んでほしい。 ・ 読書の大切さを感じる。引き続き推進に力を入れていただき、本が好きになるような取組を進めてほしい。 ・ 三江の特色である「コウノトリ」等ふるさとに関する学習を地域と連携しながら推進していく必要がある。
○学校運営について ・ 不登校のみならず、集団に入りにくい子どもの居場所をつくってほしい。 ・ 危機管理への対応が迅速であり今後も大事にしてほしい。 ・ いじめの防止に向けて、今後も地域や保護者としての役割をしっかりと考えながら、協力した関わりについて考えていきたい。
○課題教育について ・ 挨拶をすることの大切さを継続し指導していただきたい。また、感謝の気持ちを持ち、伝えていける子を育てていく必要がある。 ・ 挨拶、食事、睡眠、省ゲーム・省テレビ等については家庭教育によるものも大きい。学校と保護者が連携して取り組んでほしい。 ・ 一人一人の子どもに目を行き届かせ、指導していただいていると感じる。人権教育のこと、いじめのこと、命を守ることなど、人権意識の高揚をさらに高めてほしい。

- ※ 各教科、領域、行事等に「体験活動」を積極的に取り入れ、教育活動の充実に努める。
- ※ 上記の評価の観点は一市統一とするが、各校で特色ある活動・重点項目を追加してもよい。
- ※ 評価項目は各校の実態に応じて設定するが、外部評価者が理解しやすい具体的内容の記述に努める。